

夏の 体調管理

感染症に気をつけましょう

夏には、夏に多く見られる感染症があります。特にプールの水を媒介して、感染する場合がありますので注意しましょう。

夏に多く見られる感染症

※第二種感染症……第二種の感染症にかかった者については、それぞれ定められた期間は無休停止。ただし、症状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められた場合はこの限りではない。
第三種感染症……第三種の感染症、その他の感染症については、症状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

咽頭結膜熱（プール熱）

第二種感染症

症状 急な高熱とどの痛みと、だるさ、頭屑、目やにや充血、首のリンパ節が腫れます。熱は3～4日続き、全身状態の改善までに1週間程度かかります。
注意する点 感染力が強く、発熱、目の充血、のどの痛みなどがなくなってから、2日を経過するまで登園・登校ができません。発症したら安静を心がけ、水分補給やのどしめのよいものを与えるようにします。

手足口病

第三種感染症

症状 口の中、手や足、足の裏、ひじやひざの周り、臀部などに細かい発疹が出ます。発熱する場合もあります。口の中が痛み、水分や食事がとりにくくなります。
注意する点 ウイルスの種類により脳炎などをもたない重症化すること。また、のどの痛みで飲食がしにくい場合は、のどがよく、刺激の少ないものを与えます。全身状態がよい場合には登園・登校は可能です。

流行性角結膜炎（はやり目）

第三種感染症

症状 1～2週間の潜伏期間があり、結膜の充血や目やに、かゆみ、まぶたの腫れなどが見られます。白目や結膜の充血が著しいのが特徴的です。
注意する点 目やにや充血の症状がなくなり、医師から感染の恐れがないと認められるまで登園・登校はできません。感染力が強いので、家庭内でのタオルの共用は避けます。感染予防には手洗いが大切です。

とびひ

第三種感染症

症状 虫さされやあせも、すり傷などから菌が入り、水疱ができます。かゆみのため、それをかきこわすことで増えたりひどくなったりします。
注意する点 ジュクジュクしている患部はガーゼなどで覆うことができれば登園・登校を禁止しなくてもよいとされています。皮膚を清潔に保つようにします。

ヘルパンギーナ

第三種感染症

症状 突然の高熱（38～40℃）やのどの痛み、異動児ではよだれが着る、食欲の低下、不機嫌などの症状も見られます。上あごや口唇垂（のどちんこ）に小さな水疱ができます。
注意する点 熱が下がり痛みがなく、飲食がしつかりできるようになるまでは、数日休ませます。全身状態がよければ登園・登校が可能です。

水いぼ

第三種感染症

症状 1～5 mm大の半球状で中心がくぼんだ、白色で光沢のあるいぼができます。こすれるとうつるため、わきの下などに広がる場合もあります。
注意する点 数か月から2年以内には自然に消失するといわれています。かきこわしている時、アトピー性皮膚炎のある場合は治療をした方がよいようです。プールの水ではうつりませんが、タオルやビート板などを介してうつることがあるため共用は避けます。なお、出席停止の必要はありません。

プール・水遊びの前に 体調をチェックしましょう

プールや水遊びの時の朝に、次の項目を確認しておきましょう。

- ☐ 発熱はない。
- ☐ 朝ごはんを食べた。
- ☐ 皮膚に発疹などは出ていない。
- ☐ 目の充血や目やになどは出ていない。
- ☐ 下痢や腹痛はない。
- ☐ せきや鼻水は出ていない。

- ☐ 耳あかを取った。
- ☐ つめを切った。

